

## 沖永良部島から得られたアマミコイソハゼの記録

望月健太郎・松沼瑞樹

〒 631-0052 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部環境管理学科

### はじめに

イソハゼ属 *Eviota* Jenkins, 1903 はインド・太平洋の温帯域から熱帯域に分布し、岩礁やサンゴ礁を主な生息域とする小型のハゼ科魚類である（鈴木ほか, 2004）。これまでに本属魚類は 118 有効種が報告されており（Greenfield, 2017；Greenfield et al., 2018, 2019；Fujiwara et al., 2019），Fujiwara et al. (2019) により新たにアマミコイソハゼ *Eviota amamiko* Fujiwara, Suzuki and Motomura, 2019 が屋久島，加計呂麻島および西表島から得られた 3 個体の標本に基づき記載された。

2018 年 10 月に鹿児島県沖永良部島沖で採集された 1 個体のイソハゼ属の標本が，アマミコイソハゼに同定された。本標本は，本種の沖永良部島からの初記録となるためここに報告する。

### 材料と方法

計数・計測方法は Greenfield and Winterbottom (2016) と Fujiwara et al. (2019) にしたがった。標本の作製，登録，撮影および固定方法は本村(2009)に準拠した。標準体長は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行い，計測値は体長に対する百分率 (%) で示した。胸鰭と腹鰭，頭部感覚孔の観察，および鱗の計数・計測にはサイアニンプルーを用いた。

Mochizuki, K. and M. Matsunuma. 2019. First record of *Eviota amamiko* (Teleostei: Gobiidae) from Okinoerabu Island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 46: 193–195.

✉ KM: Department of Environmental Management, Faculty of Agriculture, Kindai University, 3327-204 Nakamachi, Nara 631-8505, Japan (e-mail: 1711450110s@nara.kindai.ac.jp).

Published online: 8 November 2019

[http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_046/046-040.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-040.pdf)

色彩の記載は Fig. 1 に基づく。本報告に用いた標本は近畿大学農学部 (KUN) に保管されている。

### 結果と考察

*Eviota amamiko* Fujiwara, Suzuki and Motomura, 2019  
アマミコイソハゼ (Fig. 1)

標本 KUN-P 48948, 体長 10.1 mm, 鹿児島県沖永良部島田皆岬沖 (27°24'14"N, 128°31'48"E), 水深 18 m, 荻野 星, たも網, 2018 年 10 月 23 日。

記載 背鰭鰭条数 VI + I, 8；臀鰭鰭条数 I, 8；胸鰭軟条数 14；腹鰭鰭条数 I, 4；縦列鱗数 23；横列鱗数 5。

体各部の体長に対する割合 (%)：頭長 31.1；吻長 7.0；眼窩径 10.3；上顎長 12.0；体高 16.7；第 1 背鰭前長 36.7；第 2 背鰭前長 58.7；臀鰭前長 60.2；尾柄長 24.6；尾柄高 12.2；胸鰭長 34.5；腹鰭長 35.0。

体は細長く，側扁する。吻端は丸みを帯びる。鼻孔は 2 対で眼の前方に位置する。前鼻孔は管の先端で開孔し，後鼻孔は楕円形。口裂は斜位で上顎後端は眼の中央直下に位置する。眼は大きく，両眼間隔は狭い。頭部の感覚管開孔はない。第 1 背鰭は第 2 棘が最長となり，第 3–6 棘に向かうにつれ短くなる。第 1 背鰭起部は胸鰭基部後端上方よりやや後方に位置する。第 2 背鰭は第 4 軟条が最長となり，第 8 軟条は基底部付近で分枝する。第 2 背鰭起部は肛門上方に位置する。臀鰭は第 3 軟条が最長となり，第 8 軟条は基底部付近で分枝する。臀鰭起部は第 2 背鰭第 2 軟条下方に位置する。胸鰭は第 2 背鰭第 3 軟条下方まで達する。腹鰭基部は鰓蓋後端下方に位置する。腹鰭は基膜がなく，鰭条がそれぞれ分離する。尾鰭は截形。

色彩 生鮮時の色彩 — 体の地色は一様に橙色

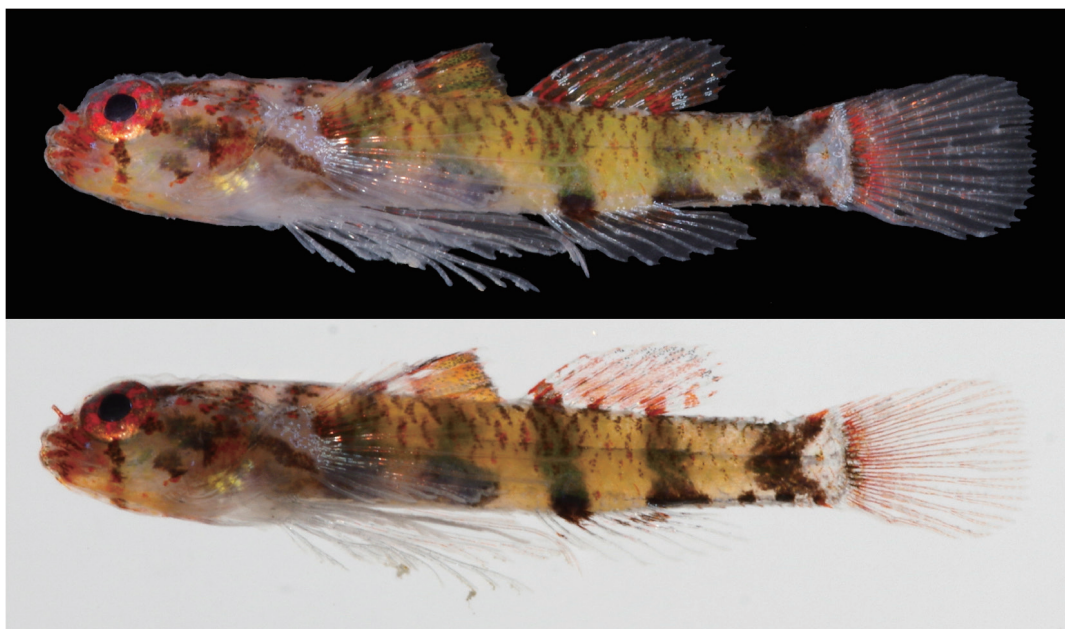


Fig. 1. Fresh specimens of *Eviota amamiko*. KUN-P 48948, 10.1 mm SL, off Tamina Cape, Okinoerabu Island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

で、尾柄部では白色。頭部は吻から下顎にかけて濃い赤色を呈し、頬部から峡部にかけて淡い橙色を呈する。虹彩は赤色で、橙色の放射状帯がある。眼を起点として3本の褐色帯があり、それぞれ側頭部、眼後部、眼下部に向かって伸長する。鰓蓋部から側頭部にかけて赤褐色斑が散在する。鰓蓋部から胸鰭基部にかけて不明瞭な褐色帯が伸びる。躯幹部から尾柄にかけて5本の茶褐色の横帯がある。躯幹部にある鱗の縁辺部に褐色点が点在する。尾柄の背側と腹側にそれぞれ小さい赤色斑が1つずつある。第1背鰭は鰭条が赤色、鰭膜が橙色を呈する。第2背鰭は鰭条に赤色と白色の縞模様があり、鰭膜は淡い橙色を呈する。臀鰭は透明で、基底付近に褐色斑が点在する。胸鰭は鰭条に淡い赤色を呈し、鰭膜は透明。腹鰭は透明。尾鰭の基底部は赤色で、中央部に不明瞭な褐色斑がある。尾鰭の鰭条は淡い赤色を呈し、鰭膜は透明。

**分布** 本種は日本の屋久島、加計呂麻島および西表島からのみ報告されており (Fujiwara et al., 2019)、本研究により新たに沖永良部島における分布が確認された。

**備考** 観察標本は頭部に感覚管開孔を欠くこと、背鰭と臀鰭の軟条数がそれぞれ8であること、

胸鰭軟条数が14であること、腹鰭第5軟条を欠くことなどから Fujiwara et al. (2019) の記載した *E. amamiko* の特徴とよく一致したため、本種に同定された。

本種は鈴木ほか (2004) にてイソハゼ属の1種 -*Eviota* sp. 5 として初めて報告され、Moto-mura and Harazaki (2017) や萩原 (2018, 2019) ではシマイソハゼ属の1種 *Trimmatom* sp. として扱われていた (Fujiwara et al., 2019)。

## ■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり近畿大学農学部 荻野 星氏と河村勇輝氏ならびに鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の皆様には沖永良部島での調査や標本の採集に多大なご協力をいただいた。また近畿大学農学部水圏生態学研究室の皆様には標本の作製や登録にご協力いただいた。同研究室の富森祐樹氏には計測方法について適切な助言をいただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表する。

## ■ 引用文献

- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2019. Two new dwarfgobies (Gobiidae) from southern Japan: *Eviota amamiko* and *Eviota perspicilla*. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-019-00712-x
- Greenfield, D. W. 2017. An overview of the dwarfgobies, the second most speciose coral-reef fish genus (Teleostei: Gobiidae: *Eviota*). Journal of the Ocean Science Foundation, 29: 32–54.
- Greenfield, D. W. and L. Gordon. 2019. *Eviota dalyi*, a new dwarfgoby from the Amirante Islands, Seychelles (Teleostei: Gobiidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 33: 9–15.
- Greenfield, D. W., L. Tornabene, M. V. Erdmann and D. N. Pada. 2019. *Eviota gunawanae*, a new microendemic dwarfgoby from the Fakfak Peninsula, West Papua, Indonesia (Teleostei: Gobiidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 32: 57–67.
- Greenfield, D. W., L. Tornabene, M. Gómez-Buckley and M. V. Erdmann. 2018. *Eviota maculosa*, a new dwarfgoby from the Western Pacific Ocean (Teleostei: Gobiidae). Journal of the Ocean Science Foundation, 31: 18–31.
- Greenfield, D. W. and R. Winterbottom. 2016. A key to the dwarfgoby species (Teleostei: Gobiidae: *Eviota*) described between 1871 and 2016. Journal of the Ocean Science Foundation, 24: 35–90.
- 萩原清司. 2018. ハゼ科. Pp. 331–369. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・横須賀市自然・人文博物館, 横須賀・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原・国立科学博物館, つくば.
- 萩原清司. 2019. ハゼ科. Pp. 335–374. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. and S. Harazaki 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.